

ふなうた あわ たてのがわ
舟歌に併せ持ちたる 楯野川
もがみ さかた
最上下りて 酒田の屋敷

令和五年二月二十二日

大中臣正比呂



最上川舟歌を聴きながら、貴女が薦めてくれた銘酒「楯野川」を飲む。

ヨイイサノ マガシヨー

最上川は北前きたまえの酒田に注ぐ。3. 11が近づく、その街を思い出す。

東北大震災の翌日、筆者は東京から山形経由で、仙台に残った友を救出に行ったのだが、幸いにも事なきを得た。だが、可能な帰路は大混雑である。

山形に一泊し、次の空便が取れるまで酒田に出た。酒田は北前舟の寄港地であったから、昔は栄えた街である。

既に桃の節句は過ぎていたのだが、ある旧家を訪ねたら未だ雛人形が飾られていた。天上から吊した美しい雛飾りもあった。

肌寒い酒田には春が訪れていて、あの安堵の一日を思い出す。